
日台稲門会 ニュースレター 6月号 (2021年5月25日発行)

会報担当：橋本紀明 / hashimoto.inforia@gmail.com

日台稲門会会員の皆様

コロナワクチン接種がスタートし、高齢者向けもだいぶ進み始めたようです。しかし、まだコロナは収束していませんので、ご注意ください。日台稲門会ニュースレター6月号をお届けします。会員の皆様の投稿をお待ちしております。

1. 新型コロナに対する日台稲門会の対応 (三村会長)

■4月28日に校友会から今後の稲門会活動についてのお願いが来ました。要旨は、現在、新型コロナ感染が拡大傾向であり、大都市中心に蔓延防止等充填処置や緊急事態宣言が発令されている。そのため、①緊急事態宣言中は、従来通り対象地域では集会等行事を自粛すること、②緊急事態やまん延防止解除後は、対面活動はできるが、引き続き感染防止にご協力してほしい、とのことでした。日台稲門会もこの趣旨にもとづき、活動をしたいと思います。

2. 最近の話題

5月13日午後、台湾高雄市で公営の火力発電所にトラブルが発生し、全面的に稼働を停止。台湾当局は計画停電実施を決定。(900万世帯中)600万世帯に影響が出た。

台湾で新型コロナ感染拡大。5月23日の国内感染者は287名。累計4,322人。台北市万華に位置する「茶芸館」関連の感染者がこの日も25名となり、同関連は累計で161名となっている。

3. 台湾情勢 (劉彦甫さん)

■劉彦甫さんによる台湾報道の連載

当会会員劉彦甫さん (WTA 出身で現在東洋経済新報社記者) の署名記事が二つ出ましたので報告いたします。

・『米中対立、「台湾」が緊迫の焦点となる2つの事情』

4月16日の日米首脳会談で台湾の存在を認めた「台湾海峡の平和と安定の重要性」という共同声明が出されたが、その背景となる台湾の重要性について、小笠原東京外大教授の解説を含めて詳しく述べています。

劉さんの記事 <https://premium.toyokeizai.net/articles/-/26903>

・『中国の「台湾侵攻」に日本が備えておくべき理由』

日本は米中対立や台湾問題にどう向き合えばいいのか、松田康博東大教授へのインタビューを通じて解説しています。

劉さんのインタビュー記事 <https://premium.toyokeizai.net/articles/-/26902>

劉さんによる台湾関連の記事は、毎回記載いたします。楽しみにしててください。なお、東洋経済新報社のデジタル媒体「東洋経済プラス」に会員登録することでメルマガでも読むことができます。

4. 台湾時代の思い出（渡邊義典さん）

■芝山巖 芝山巖学堂 六士先生の墓（その1）

私は2度目の台湾在住の時の2004年から2009年まで「士林区雨聲街」に住んでいました。MRTの「芝山」で下車し中山北路を渡って東へ行きます。

私のアパートから徒歩2〜3分のところに芝山公園があります。そこは芝山巖という海拔52メートルの小高い岩山です。芝山巖には台湾の有史以前の考古時代の遺跡から、清朝時代、日本統治時代を経て、現在に至るまでの台湾の重層的な歴史がびっしり詰まっている場所です。

私はほぼ毎日芝山巖を取り巻く遊歩道を一周して、体操をしたり、廟にお参りしたり、歴史を読んだり、また、真夏の休日には芝山巖学堂で読書をしたり書き物をしたりしていました。

芝山巖のさまざまな遺跡や記念物、建物には詳しい由来が書かれており、これをすべて読めば台湾の歴史の一端を知ることができます。

ここは非常に有名な場所ではありますが日本人が訪れることはあまりなかったように思いますので、そのころの思い出を書いてみたいと思います。

私が在住していた時の思い出ですから、現在は様子が変わっているかもしれません。

考古の時代としては化石や3,000年以上前の先住民の人骨や土器などが発掘されていて、「芝山巖文化」に分類されています。構内には遺跡の展示場もあります。

この辺りは原住民の時代には「八芝蘭」と呼ばれていたそうです。「八芝蘭竹」という固有種の竹が自生していて、日本統治時代には天然記念物の指定を受けていました。自然観察園もあり、台湾リスが多く生息しています。

清の時代になって岩山の西方に「芝山巖恵濟宮」という、道教、仏教、儒教の三教合一の廟が開かれました。ここは別名「開漳聖王廟」と言い、唐の時代の官吏である陳元光を祀っています。

この人は唐末期に福建省漳州で先住民を平定して漢族の福建への移民開拓の基礎を築きました。

芝山の地には漳州移民が多かったので漳州開拓の祖を祀って清の乾隆17年（1752年）に開廟され、250年以上の歴史のある、由緒ある廟です。

毎日、早朝から地元の人たちの参詣で線香の煙が絶えることがありません。

（渡邊義典）

5. 注目の台湾新刊本紹介（5月発売）

- 「台湾の政治—中華民国台湾化の戦後史」の増補版（若林正文 著）（東京大学出版会）
（5月20日刊）（税込8,140円）

2008年に出版された同名本がベースで、台湾の歴史とその未来を民主化という視点からとらえた決定版。増補版では、最近の中国の影響力メカニズムと中華民国台湾化の現在を解説。



- 「彭明敏: 蔣介石と闘った台湾人」(近藤伸二 著) (白水社)
（5月20日刊）（税込2,750円）

台湾民主化を象徴する人物の波乱万丈の生涯を描いた台湾裏面史。

李登輝氏と学者仲間と友人でもあった彭明敏氏が、台湾民主化のため、「台湾人民自救運動宣言」を作成し海外への亡命という道を選ばざるを得なかった人物。台湾と中国は別々の存在だとする主張が現在の「一中一台論」の原点となっている点に注目。



- 「誰の日本時代 ジェンダー・階層・帝国の台湾史」(洪郁如 著) (法政大学出版局)
（5月刊）（税込3,080円）

「日本時代」とは何か。印象論的な「親日台湾」を乗り越え、台湾のいまを知るためには、とりわけ日本が深く関わった時代に正面から向き合う作業が避けて通れない。日本時代の植民地統治にフォーカスをあて、個人史と家族史を中心に新たな視座を提供している。



- 「日本統治時代台湾の築港・人材育成事業」(井上敏孝 著)(晃洋書房)
(5月20日刊)(税込4,950円)

日本統治時代の台湾で進められた築港事業の詳細とその歴史的意義を明らかにしたもの。台湾総督府の築港方針と築港事業に携わった技術者の人材育成という2つを柱として分析し、台湾の築港事業の「経験」が台湾総督府及び日本帝国のその後の政策にどのように影響したかを解明。



- 「牡丹社事件 マブイの行方 - 日本と台湾、それぞれの和解-増補版」(平野久美子 著)
(集広舎)(5月15日刊)(税込2,200円)

清朝時代、台湾における宮古島島民の遭難殺害から日本の台湾出兵に至るまでの一連の出来事を牡丹社事件と呼ぶが、この出来事の加害者と被害者の歴史を巡る葛藤を描いたもの。マブイ(魂)の鎮魂、彼らの祈りは?琉球民遭難殺害事件から150年、新たに見えてきた日台のドラマ。2020年までの日台双方の和解の試みを補筆。日台はどのように過去の清算に努めたかを記載。



6. 映画 試写会紹介(6月上映)(無料)

- 「台湾近代美術発展に人生を捧げた塩月桃甫」(財台湾協会主催)
日本統治時代の台湾に、初めて西洋美術を広め、台湾美術展覧会を開くなど、25年にわたり台湾の美術界に大きく貢献した塩月桃甫(しおつきとうほ 本名;永野善吉 1886年-1954年)。塩月桃甫の生涯をドキュメンターで描いた映画。

日 時: 2021年6月6日(日曜日)

会 場: 大手町サンケイプラザ 3階の301、302号室 東京都千代田区大手町1-7-2

入 場: 無料(ただし、定員 80名)

上映時間: 第1回=午後1時~ 第2回=午後3時~

申し込み: メール又は電話で御希望の上映回を明示の上台湾協会に申し込みください。

台湾協会メール番号: taiwankyokai6@snow.ocn.ne.jp 同電話番号: (03) 3200-8116

アクセス: 丸ノ内線、半蔵門線、千代田線、東西線、都営三田線大手町駅E1・A4出口直結
東京駅 丸の内北口より7分

申し込み: メール又は電話で御希望の上映回を明示の上台湾協会にお申し込みください。

台湾協会メール番号: taiwankyokai6@snow.ocn.ne.jp 同電話番号: (03) 3200-8116

7. セミナーの紹介（6月開催）（無料）

■河崎眞澄氏講演（オンライン配信あり）（財日台政策研究所主催）

産経新聞社台北支局長・上海支局長などを歴任され、昨年『李登輝秘録』（産経新聞出版）を上梓された河崎眞澄氏に、李登輝亡き後の台湾をめぐる情勢について報告いただきます。皆様のご参加をお待ちしております。

日時 2021年6月19日（土） 14:00～16:00

場所 山形県生涯学習センター 遊学館 ※オンラインでも配信いたします。

題目 2021年に急浮上した「台湾」の存在感
海峡有事に日米はどう備えるか

報告者 河崎眞澄（産経新聞編集局特別記者兼論説委員）

申込み <https://forms.gle/RuJ4jjuG4E53eFw17>

締切 6月11日（金）

お問い合わせ 事務局 (nichitaiken@gmail.com) まで

8. 展覧会の紹介（6月開催）（無料）（台湾協会より紹介）

■楊三郎 展

台湾（新北市）に同名の美術館もある 20 世紀の台湾における伝説的な画家。15 歳の時、台北で日本画家・塩月桃甫の絵を見て、油絵の美しさに刺激され画家を志す。

日時 2021年6月26日（土）～7月10日（土）

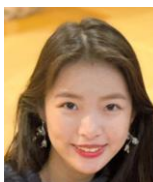
10:30～18:30(平日) 11:00～17:00(土曜)（日・祝日休み）

場所 株式会社 泰明画廊 東京都中央区銀座7-3-5

連絡 03-3574-7225 FAX 03-3573-5737 Eメール info@taimei-g.com

9. 訃報

■陳品君（アニー・チェン）さん



当会にも関係ある WISA（早稲田大学台湾留学生会）のメンバー、陳品君（Annie Chen、国際教養学部4年）さんが、4月2日に起きた台湾列車事故の犠牲となりました。コロナ禍で台湾に帰省している時に事故に遭いました。まだ22歳。あと1年で卒業だったので可哀そうでなりません。謹んでお悔やみ申し上げます。（写真はご友人より）

■高橋徹さん



当会で、2012年から15年まで幹事長を務められ、現在顧問でした高橋徹さんが、今年3月18日に自宅で倒れられ、逝去されました。享年71歳。謹んでお悔やみ申し上げます。（左；早慶ゴルフで、右；鎌田前総長と）



10. 年会費のお願い

会員、会友の皆様には、毎年お願いしておりますが、本年度も年会費 3,000 円納入をよろしくお願いいたします。

年会費 3,000 円

日台稲門会口座 ☆みずほ銀行 六本木支店 (店番 053)
口座番号 普通預金 4 4 4 8 9 3 7
口座名 ニッタイトウモンカイ

☆ゆうちょ銀行

口座番号 0 0 1 3 0 - 8 - 6 9 8 0 5
口座名 日台稲門会

ゆうちょ銀行振り込みの場合、確認のため、会計担当(下記)にお名前(会員登録名)、振込日、振込金額の連絡をメールでお願いいたします。 会計担当(川村淳一) メール junichi.kawamura, dir@gmail.com

11. 今後の予定

定例の総会につきましては、今後、日台稲門会ホームページまたはメールで連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

台湾に関することでしたら何でも結構ですので、このニュースレターに投稿してください。メールの宛先は、hashimoto.inforia@gmail.com です。

編集後記

■ 最近テレビで、日本は①礼儀正しい国、②清潔、③治安がいい、④料理がおいしい、⑤思いやりの心があるからコロナ収束後、訪日外国人が増えると言っていました。デフレ、円安が続けばそうなりそうな気がします。バブル崩壊の 90 年代後半、喪失感漂う日本に対して、台湾の人が、北陸など日本の観光地のいい点を一生懸命訴えたことを思い出しました。(橋)